

日本税関輸出入取引データを分析する 伊藤隆敏先生との共同研究

経済経営研究所 論文報奨金に対するリレーエッセイ

対象論文 : Invoicing currency and exchange rate pass-through in Japanese imports: A panel VAR analysis

著者 : Taiyo Yoshimi, Uraku Yoshimoto, Takatoshi Ito, Kiyotaka Sato, Junko Shimizu, Yushi Yoshida

掲載国際ジャーナル : Journal of the Japanese and International Economies, Volume 78, December 2025, 101391 (2024年: IF=3.1, CiteScore=7.3)

吉田裕司 Yushi Yoshida
滋賀大学 経済学部 / 教授

本研究は、吉見大洋准教授（中央大学）、吉元宇楽講師（横浜国立大学）、伊藤隆敏教授（コロンビア大学）、佐藤清隆教授（横浜国立大学）、清水順子教授（学習院大学）、との共同研究で、財務省の客員研究官として日本税関のデータを本省の財務省財務総合政策研究所にて、円建て契約とドル建て契約を区別して、輸入為替レートパススルー（輸入価格が為替レートの影響をどの程度受けているかの程度）を計測分析した研究成果です。本研究チームは2022年4月から3年間の期間、申請した研究テーマに沿ったデータへのアクセスを許可されていました。これまでに、この研究チームの研究成果はNBER（全米経済研究所）から6本のWorking Paperとして公開されていますが、本論文は国際ジャーナルに掲載された第一号となります。他の5本もそれぞれ国際ジャーナルに投稿して審査結果待ち、R&R（国際ジャーナルからの改訂要求）への対応中、棄却されて次のジャーナル投稿をするための準備中、となっています。

我々が心を痛めたのは、本研究グループの精神的支柱であった伊藤隆敏先生が2025年9月20日にご逝去されたことでした。国際金融分野での顕著な研究成果や、東京大学・政策研究大学院大学・コロンビア大学における研究・教育活動を通して、世界に誇れる日本人の経済学者の一人である伊藤隆敏先生と一緒に共同研究を出来たことを糧に、これからも精進していきたいと強く思っています。公式な伊藤先生への追悼文は多くあります。本研究チームからは佐藤氏が週刊エコノミスト、清水氏が（独）経済産業研究所に公開しています。同僚のDavid Weinstein氏（コロンビア大学）がコロンビア・ビジネススクー

ルの公式な追悼文として（2025年9月末）、またVOX-EUには青木浩介氏（東京大学）、Alan Auerbach氏（カリフォルニア大学バークレー校）、Charles Yuji Horioka氏（元大阪大学）、Anil K Kashyap（シカゴ大学）、渡辺努（元東京大学）、David Weinstein氏が連名で追悼文として伊藤先生の経歴・研究について詳しく紹介しています（同11月7日）。以下には、我々のチームの研究が紹介されている一文を引用します。“After years of persistent requests to the customs authorities, access was finally granted in 2022. Using these newly available data, Taka and his collaborators showed that intra-firm trade increases the likelihood of dollar invoicing and promotes PTM-type pricing strategies, helping to explain why Japanese exports do not necessarily rise when the yen depreciates.”

伊藤先生との個人的な思い出としては、2024年2月にコロンビア大学ビジネススクールで毎年開催されるJapan Economic Seminarにて私が責任著者となっている本研究チームの研究報告の機会を頂いたことです。一時間の長丁場であること、正式討論者として連銀の著名な研究者Linda Goldberg氏が指定されていたことで、従来の国際学会での報告よりは気が引き締まっていました。ほっとした翌日の朝には、気分転換も含めてセントラルパークを一周（10K）ランニングしてから、伊藤先生に予約してもらったイタリアンレストランで共著者4名とランチをすることになりました。私は伊藤先生と対面でゆっくり話す機会がないため、食事が終わった時点で「実は次の論文の準備が進んでいます、説明しても良いですか?」とお洒落な

店の中でパソコンを開いてプレゼンを始めてしまいました。その時に、伊藤先生が野暮なことをするなと叱るでもなく、にんまりされていたのが思い出されます。

本研究に関わるもう一つの話でこのリレーエッセイを閉めたいと思います。私は研究のアウトリーチのためにLinkedInというソーシャルネットワークを二年前ほどから始めています。今回も、本研究のJJIEでの掲載に伴い、端的な紹介文とともにポストしました(10月31日)。それを見つけたマレーシアに所在するアジアの国際機関であるSEACEN*のExecutive DirectorのCyn-Young Park氏から連絡があり、11月5日にオンラインで意見交換を行いました。米ドルの貿易建値通貨や決済通貨としての影響はアジア地域で大きなもので、彼らの研究テーマも私たちの研究と強い関連があります。今後はオンライン会議や対面での会議にも参加するように招待を受けたので、日本の研究者としてアジアの政策立案の基盤になるような研究を続け、積極的な交流・発信をしていきたいと思えます。偉大な先人に一歩ずつでも近づけるように。(2025年11月8日)

*South East Asian Central Banks (SEACEN) Research and Training Centre 東南アジア中央銀行連合会研究所、日本での訳語は定着していないようです)、現時点で19カ国の中央銀行が正式加盟国となっています。日本銀行は正式加盟ではなく、Observer memberとなっています。

※この研究論文は、科研費B「世界インフレと円安の国内物価への波及:税関データによる建値通貨・パスルー分析」(25K00649, 吉田代表)からの研究支援を受けた研究成果です。

参考資料

- Kosuke Aoki, Alan Auerbach, Charles Yuji Horioka, Anil K Kashyap, Tsutomu Watanabe, David Weinstein, “Takatoshi Ito, scholarship on Japan’s economy transformed,” VOXEU column, 7 Nov 2025.



Invoicing currency and exchange rate pass-through in Japanese imports: A panel VAR analysis¹⁰

Taiyo Yoshimi^{a, *}, Uraku Yoshimoto^b, Takatoshi Ito^c, Kiyotaka Sato^b, Junko Shimizu^d, Yushi Yoshida^e

^a Faculty of Economics, Chuo University, Japan
^b Faculty of International Social Sciences, Tohoku National University, Japan
^c School of International and Public Affairs, Columbia University, The United States, National Bureau of Economic Research, USA
^d Faculty of Economics, Gakushuin University, Japan
^e Faculty of Economics, Shiga University, Japan



2024年2月、コロンビア大学CJEBで開催されたJapan Economic Seminar (JES)での一コマ。写真左から伊藤先生、吉元宇楽横浜国立大学講師、吉見太洋中央大学准教授、吉田裕司滋賀大学教授、清水順子学習院大学教授。